

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	白石町立六角小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	① チーム担任制のメリットを生かして、学級や学年を超えた横と縦のつながりを意識した確かで豊かな教育活動の展開を図る。 ② 「ほめるからはじめ」、一人ひとりの頑張りをよさを知り、お互いの違いや失敗を認め合いなど、努力や取組の過程を大切にできる機会と場の設定の工夫を図る。 ③ 学校・地域・家庭との交流を密にし、共通した理念のもとに、創立150年を経た歴史に培われた連綿と受け継がれる伝統と学校文化の錬磨を図る。
------------------	--

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成 ～ きらり チャレンジ チーム六角っ子 ～
----------	---

3 本年度の重点目標	1 チーム担任制による横と縦のつながりを意識した確かで豊かな学び 2 違いや失敗を認め合い、努力や取組の過程を大切にできる機会と場の設定 3 学校・地域・家庭との共有・交流・実践による学校文化の錬磨
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上		○確かな学力をつけるために、分かりやすい授業づくりへの共通理解と共通実践	○問題への書き込みを手掛かりに自分の考えを持ち、話し合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、友達のを理解したりして考えを広げ深めることができる児童80%以上 ○授業づくりステップ1・2・3の「書く活動」と「話し合う活動(少人数)」を意識し、ステップを向上することができる教師85%以上	・基礎基本の定着に結び付く取組を全校で共通理解を図り、実施する。 ・自分の考えを順序立てて書くこと、条件に合わせて書くことと取組と少人数で話し合う活動を取り入れ、考えを深め広げる取組。 ・授業づくりステップ1・2・3の研修と実践							かしく部
●心の教育		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手を思いやる言動ができ、協力することができる」と回答した児童85%以上	・あいさつ運動、平和学習、人権週間などを進めて、思いやりや協力を育てる。							やさしく部
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、専任対応等)について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上	・いじめの対応についての研修、会議、特別支援・生徒指導連絡会を計画的に行う。 ・「児童理解支援シート」の活用と「心の元気チェック」、年間2回の教育相談週間等を実施することで教育相談体制の充実を図る。							たくましく部
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童85%以上	・「ほめるからはじめ」を意識し、児童への1日ひと褒めを実施する。 ・キャリアパスポート等を活用し、自分の成長や頑張りを振り返る学習活動を特別活動の時間を中心に計画的に取り入れる。							やさしく部
		○お互いの違いや失敗を認め合うなど、努力や取組の過程を大切にできる教育活動	○「自分や友達の頑張りをよさを認めたり、見つけたりすることができる」と回答した児童を85%以上	・自分や友達の行動や作品等の良いところ見つけを教育活動の中で意図的に行うなど、認め合うことを中心に据えた学級経営を行うことにより、児童の意欲と自己肯定感を高める。							やさしく部
●健康・体づくり		●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・年5回、登校班チェックをして指導を充実させる。 ・学期ごとに防犯ブザーチェックを行い、安全に対する意識を低下させないよう努める。							たくましく部
		○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○清潔検査で朝ごはんを主食と主菜の両方を食べたという児童80%以上	・食育月間に委員会活動等を活用し、朝ごはんチャレンジを実施することで、より良い朝ごはんを食べようとする意識付けを行う。							たくましく部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定し、確実に厳守する。 ・職員研修を課業日に位置付け、長期休業中には、年休がとりやすいように全体での研修を分散する。							管理職
		○ウェルビーイングな働き方の共有	○チーム担任制の良さを実感する職員を80%以上	・放課後の時間に、毎週「チーム部会」「チーム事務」等の時間を設定することで意識をもって取り組む。							管理職
●特別支援教育の充実		○特別支援教育についての全職員の共通理解と共通実践	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上	・児童や保護者への啓発活動を実施し児童の相互理解、関係者の理解を深める。 ・月1回の特別支援・生徒指導連絡会で、情報や対応の方法を共有する。 ・児童の実態に応じてケース会議を開催し、よりよい支援体制づくりを図る。							特別支援教育C

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組	評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
○主体的に学び共に伸びる子どもの育成		○自己判断・決定・行動の機会の設定	○「特別活動を通して、自己有用感を感じている」と回答した児童を85%以上	・個々が活躍するための学校行事や縦割り活動等を計画的に実施する。 ・学級活動を総合的な学習の時間などと関連づけ、児童の主体的な活動を促したり、場を設定したりする。							教務主任
		○郷土愛を育む地域や人を活用した体験活動の整理と充実	○「地域や社会をよくするために何をすべきかかんがえることができる」と回答した児童を90%以上	・学校行事や教科、総合的な学習の時間等で地域の教育材(人・もの・こと)を活用する。							管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--